

株式会社ダイキアクシス

ダイキアクシス グリーンボンド

グリーンボンド適格性 債券発行前アセスメント報告書

— DNV GL セカンドパーティオピニオン



2020年1月



DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

## 目次

報告書サマリー	3
I まえがき	4
II スcopeと目的	6
DNV GL オピニオンの基礎	7
III 評価作業	8
IV 観察結果と DNV GL 意見	9
スケジュール-1 ダイキアクシス グリーンボンドプロジェクト	17
スケジュール 2 グリーンボンド適格性評価手順	18
GBP-1 調達資金の使途	18
GBP-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス	20
GBP-3 調達資金の管理	21
GBP-4 レポーティング	22

報告書サマリー

株式会社ダイキアックス(以下、ダイキアックス)は、2005年にダイキ株式会社の全額出資子会社として設立され、現在、「環境機器関連事業」、「住宅機器関連事業」、また、今回のグリーンボンドの資金使途となる「再生可能エネルギー関連事業」を主要セグメントとしています。ダイキアックスは、グリーンボンド発行に当たり、「株式会社ダイキアックス グリーンボンドフレームワーク(以下グリーンボンドフレームワーク)」を確立し、グリーンボンドで調達した30億円を太陽光発電事業及び小形風力発電機事業に充当することを計画しています。DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、DNV GL)は外部レビュー機関として、グリーンボンドの適格性を評価しました。このグリーンボンドにより実行される適格プロジェクトは下表に示される通りであり、これらは国連の定める持続可能な開発目標のうちダイキアックスが進める6つ目標のうち、「7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「13.気候変動に具体的な対策を」に直接的、間接的に貢献する取組です。

グリーンプロジェクト	グリーンプロジェクト カテゴリ及び調達額	グリーンプロジェクト概要	SDGs への貢献
プロジェクト 01 : 太陽光 発電事業	再生可能エネルギー*1 (エネルギー起源のCO <sub>2</sub> 削減)	<b>-概要</b> DCMグループホームセンター既存店舗の屋根を利用した屋根置き型太陽光発電であり、新たな土地開発を必要としない。 <b>-出力、規模</b> * 充当代象候補約133カ所(最大)の合計 50kW~900kW/カ所 トータル : 23,750kW(最大) <b>-設置場所</b> * 充当代象候補約133カ所(最大) 中部地方 : 53カ所、四国地方 : 32カ所 関西地方 : 19カ所 他29カ所	7.エネルギーをみんなに そしてクリーンに 13.気候変動に具体的 な対策を    
プロジェクト 02 : 小形風力 発電機事業	調達額 : 30 億円 (償還期間 : 10 年) 全額リファイナンスを計画	<b>-概要</b> 水平軸方式小形風力発電。グループとして取組む風力発電事業。 <b>-出力、規模</b> * 充当代象候補約24基(最大)の合計 10kWクラス×2基/カ所 トータル : 約240kW(最大) <b>-設置場所</b> * 充当代象候補約24基(最大) 鹿児島、北海道等の日本各地	

\*1:グリーンボンド原則(ICMA、2018)、グリーンボンドガイドライン(環境省、2017)、気候ボンド基準(CBI、v2.1)で示される代表的な適格プロジェクトカテゴリより引用

DNV GL はグリーンボンドフレームワークが、グリーンボンド原則(ICMA、2018)、グリーンボンドガイドライン(環境省、2017)、またグリーンプロジェクトが気候ボンド基準(CBI、v2.1)の技術基準に対する適格性評価を提供します。グリーンボンド原則及びグリーンボンドガイドラインで示される4つの要素に対する評価結果概要は以下の通りです。

**要素 1.調達資金の使途** : グリーンボンド調達資金30億円を、再生可能エネルギー関連事業に充当します。具体的には国内各地に展開するDCMグループホームセンター既存店舗に設置する屋根置き型太陽光発電事業、及び小形風力発電事業へのリファイナンスです。再生可能エネルギー関連事業の維持により、国内のエネルギー起源CO<sub>2</sub>削減に貢献します。

**要素 2.プロジェクトの評価と選定のプロセス** : プロジェクトは、ダイキアックスのグループ経営理念、中期経営計画(ESG経営の推進)に合致するものです。プロジェクトの評価及び選定は、グリーンボンド原則、グリーンボンドガイドライン及び気候ボンド基準の適格クライテリアに合致するものをダイキアックスが定める手順で行っています。また、評価及び選定の際、環境関連法令、ライフサイクルを考慮した温室効果ガスの削減の想定、地域コミュニティへの対応を行い、プロジェクト実行により確実に環境貢献が得られることを確認しています。

**要素 3.調達資金の管理** : 調達資金はダイキアックス財務部で、ダイキアックスの内部管理手順を用いて管理します。調達資金(30億円)は、借入金の返済(リファイナンス)として適格プロジェクトに速やかに充当される計画です。調達資金は、ダイキアックスの財務部にて経理規程をはじめとする社内規定に基づき現金若しくは現金同等物で管理します。

**要素 4.レポート** : ダイキアックスは資金充当状況、インパクトレーティング(環境改善効果)を1年に1回ダイキアックスウェブサイトにて報告する予定です。また、継続的にグリーンボンドへの適合に対する確実性(整合性)、客観性を高めるために、少なくとも資金充当完了見込みである2年後までDNV GLによるレビューを取得予定です。

DNV GL は、グリーンボンドフレームワークをはじめとするダイキアックスより提供された関連文書・情報から、ダイキアックスグリーンボンドが関連する基準を満たし、適切に計画され、実施される見込みであることを確認しました。

## I まえがき

### 基本情報

ダイキアクシス株式会社(以下、ダイキアクシス)は 2005 年にダイキ株式会社の全額出資子会社として設立され、現在、「環境機器関連事業」、「住宅機器関連事業」、また、今回のグリーンボンドの資金使途となる「再生可能エネルギー関連事業」を主要セグメントとしています。ダイキアクシスは、グリーンボンド発行に当たり、「株式会社ダイキアクシスグリーンボンドフレームワーク(以下グリーンボンドフレームワーク)」を確立し、グリーンボンドで調達した 30 億円を太陽光発電事業及び小形風力発電機事業に充当することを計画しています。DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、DNV GL)は外部レビュー機関として、グリーンボンドフレームワークが、グリーンボンド原則(ICMA、2018)、グリーンボンドガイドライン(環境省、2017)に適合しているか、またグリーンプロジェクトが気候ボンド基準(CBI、v2.1)の技術基準に照らし合わせ、ダイキアクシスグリーンボンドの適格性を評価しました。

DNV GL は、グリーンボンドフレームワークをはじめとするダイキアクシスより提供された関連文書・情報から、ダイキアクシスグリーンボンドが関連する基準を満たし、適切に計画され、実施される見込みであることを確認しました。

**発行体名称：**株式会社 ダイキアクシス

**フレームワーク名：**ダイキアクシスグリーンボンドフレームワーク

**外部レビュー機関名：**DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

**報告書作成日：**2020 年 1 月 21 日

**報告書公開日：**2020 年 1 月 31 日

### 発行体について

ダイキアクシスは、1958 年にタイルと衛生陶器の専門店である大亀商事の創業に始まり、その後ダイキ商事株式会社への商業変更を経て、全額出資子会社として設立、その後マネジメント・バイアウトにて独立しています。現在、ダイキアクシスグループは、ダイキアクシス及び連結子会社 14 社(国内 8 社、国外 6 社)及び関連会社 2 社(国外 2 社)で構成されています。

ダイキアクシスの主要セグメントは浄化槽・排水処理システムを主力とした「環境機器関連事業」、システムキッチンに代表される「住宅機器関連事業」、太陽光発電事業及び小形風力発電機事業及びバイオディーゼル燃料関連事業等の「再生可能エネルギー関連事業」を主な事業として取組んでいます。

ダイキアクシスはグループ経営理念として「ダイキアクシスグループは、PROTECT×CHANGE『環境を守る。未来を変える。』を使命とし、環境創造開発型企業として発展を続けることで、社員の生活向上及び社会の発展に貢献する。」<sup>\*1</sup>を掲げると共に、具体的な中期経営計画(ESG 経営の推進)<sup>\*2</sup>として、上記の主な事業を通じ、環境分野においては特に、①水関連インフラ事業の海外(中国・東南アジア・インド)展開、②太陽光発電事業や小形風力発電機事業を核とする再生可能エネルギー関連事業に注力しています。

また、ダイキアクシスは国連の SDGs を踏まえ、優先的に 6 つの重要課題(マテリアリティ)に取り組んでいます<sup>\*3</sup>。

今回のグリーンボンド発行を通じた再生可能エネルギー関連事業活動の推進は、直接的に環境課題の解決に貢献するものです。この事業活動はダイキアクシスの定めるグループ経営理念、中期経営計画(ESG 経営の推進)、また SDGs への貢献への取組と密接に関連しています。

SDGs 目標	活動	ダイキアキスグループの取組
 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	水関連事業を通じた活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口の多い中国、インド、インドネシアに浄化槽の製造拠点の建設</li> <li>・ ベトナム、ミャンマー、スリランカのアジア諸国、アフリカのケニアでは現地企業との販売代理店契約締結</li> </ul>
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>  <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	再生可能エネルギー関連事業を通じた活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太陽光発電事業や小形風力発電事業を主とした再生可能エネルギー関連事業による CO<sub>2</sub> 削減に向けた取り組みを実施</li> </ul>
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	各事業を通じた活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各事業での省エネ商材の採用に注力</li> <li>・ 自社活動に伴い発生する電力を 100%再生可能エネルギーでまかなうことに向けた取組を推進</li> </ul>
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>  <p>8 働きがいも経済成長も</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革とダイバーシティの推進</li> <li>・ 女性のボードメンバー登用</li> <li>・ 女性活躍推進で「くるみん認定（厚労省の認定制度）」を取得</li> </ul>

\* 1 : コーポレートスローガン : <http://www.daiki-axis.com/company/index03.html>

\* 2 : ESG への取組 <http://www.daiki-axis.com/ir/001/index002.html>

\* 3 : ESG 経営の推進、SDGs への取組、 2019 年 12 月期第 2 四半期決算説明会(2019 年 8 月 29 日)

## II スコープと目的

ダイキアクシスは DNV GL に「ダイキアクシスグリーンボンド」の債券発行前評価及び定期レビューを委託しています。DNV GL における債券発行前評価および定期レビューの目的は、ダイキアクシスが、後述する参照する基準である GBP, GBGLs 及び CBS の関連する技術基準(太陽光発電及び風力発電)に合致していることを確認するための評価を実施し、このグリーンボンドの適格性についてセカンドパーティ・オピニオンを提供することです。

この報告書では、グリーンボンドの財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、あるいは長期の環境便益に関する保証も提供されません。

### (1) レビューのスコープ

レビューは以下の項目について評価し、GBP の主要な 4 要素の主旨との整合性について確認されました

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の用途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの選定と評価のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング           |

### (2) レビュー提供者の役割

- |   |                              |
|---|------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> コンサルタント・レビュー(セカンド・オピニオンを含む) | <input type="checkbox"/> 認証  |
| <input type="checkbox"/> 検証                                     | <input type="checkbox"/> 格付け |
| <input type="checkbox"/> その他:                                   |                              |

### (3) 適用される基準もしくはガイドライン

	基準もしくはガイドライン	発行者	適用レベル
1.	グリーンボンド原則 2018	国際資本市場	適用
2.	グリーンボンドガイドライン	環境省、2017	適用
3.	気候ボンド基準 2.1 版 (セクター技術基準)	気候ボンドイニシアチブ	適用 (適用可能な技術基準)
4.	グリーンボンド及びソーシャルボンド：持続可能な開発目標(SDGs)に照らしたハイレベルマッピング	国際資本市場	参照
5.	インパクトレポーティング調和化に関する冊子	国際資本市場	参照



## DNV GL オピニオンの基礎

DNV GL は、発行体にとってより柔軟なグリーンボンド適格性評価手順（以下、「手順」）を作成するために、GBP 及び GBGLs の要求事項を考慮したダイキアアクシスグリーンボンド評価手順を適用しました。この手順は GBP 及び GBGLs に基づく債券に適用可能です。

DNV GL のグリーンボンド評価手順は、DNV GL の意見表明の根拠に資する一連の適切な基準を含んでいます。その基準の背景にある包括的な原則は、グリーンボンドは「環境及び社会便益をもたらす新規又は既存プロジェクトのための資本調達や投資を可能とする」べきである、というものです。

DNV GL の手順に従って、レビュー対象であるこのファイナンスに対する基準は、以下の 4 つの原則にグループ分けされます。

- **要素 1：調達資金の使途**：調達資金の使途の基準は、グリーンボンドの発行体が適格性を有するグリーンボンドにより調達した資金を使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格プロジェクトは、明確な環境改善効果を提供するものです
- **要素 2：プロジェクトの評価及び選定のプロセス**：プロジェクトの評価及び選定の基準は、グリーンボンドの発行体が、グリーンボンド調達資金を使途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。
- **要素 3：調達資金の管理**：調達資金の管理の基準は、グリーンボンドが発行体組織によって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならないことが、要求事項によって定められています。
- **要素 4：レポート**：レポートの基準は、債券への投資家に対して、少なくとも、資金の充当状況及び可能な場合には定量的もしくは定性的かつ適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポートを発行する、という推奨事項によって定められています。

### III 評価作業

DNV GL の評価作業は、発行体によって誠実に情報提供されたという理解に基づいた、利用可能な情報を用いた包括的なレビューで構成されています。DNV GL は、提供された情報の正確性をチェックするための監査やその他試験等を実施していません。DNV GL の意見を形成する評価作業には、以下が含まれます。

#### 初回(グリーンボンド発行前)アセスメント

- この評価に資する上述及びスケジュール-2 に関し、ファイナンスへの適用を目的とした発行体特有の評価手順の作成。
- この債券に関して発行体より提供された根拠文書の評価、及び包括的なデスクトップ調査による補足的評価。これらのチェックでは、最新のベストプラクティス及び標準方法論を参照します。
- 発行体との協議及び、関連する文書管理のレビュー。
- 基準の各要素に対する観察結果の文書作成。

#### 定期(年次)アセスメント \*この報告書には含まれません

- グリーンボンド実行に関連した発行体により提供された根拠書類、上位レベルのデスクトップ調査、文書レビュー、及び発行体の主要担当者へのインタビューで補足された根拠書類、の評価。これらのチェックは、現在の評価ベストプラクティスと標準方法論を参照します。
- 発行体の管理者との協議、および関連文書管理のレビュー。
- 現地調査および検査（必要な場合）。
- 定期評価時点での、スケジュール-2 に記載された対象プロジェクト及び資産のレビュー。
- 本書で詳述されている、定期評価の観察結果の文書作成。

DNV GL の意見表明（詳細は後述）はこれらを要約したものです。



IV 観察結果と DNV GL 意見

DNV GL の観察結果と意見は以下の通りです。

(1) 調達資金の用途

DNV GL はダイキアaxisがグリーンボンドにより調達した資金の 30 億円のうち、経費を除く手取り金の全てを GBP 及び GBGLs で示される以下の代表的な適格プロジェクトカテゴリに合致した 2 つのグリーンプロジェクト (表-1)にリファイナンスとして充当される計画であることを確認しました。



「再生可能エネルギーに関する事業」

具体的には以下の事業です。

プロジェクト 01 : 「太陽光発電事業」 屋根置き型 約 23,750kW(50~900kW/カ所、最大)

プロジェクト 02 : 「小形風力発電機事業」 水平軸方式 約 240kW(10kW クラス/基、最大)

表-1 ダイキアaxisグリーンプロジェクト (詳細はスケジュール-1 を参照ください)

グリーンプロジェクト	グリーンプロジェクト カテゴリ及び調達額	グリーンプロジェクト概要	SDGs への貢献
プロジェクト 01 : 太陽光 発電事業	再生可能エネルギー*1 (エネルギー起源の CO <sub>2</sub> 削減)	<p><b>-概要</b> DCMグループホームセンター既存店舗の屋根を利用した屋根置き型太陽光発電であり、新たな土地開発を必要としない。</p> <p><b>-出力、規模</b> * 充当対象候補約133カ所(最大)の合計 50kW~900kW/カ所 トータル: 23,750kW(最大)</p> <p><b>-設置場所</b> * 充当対象候補約133カ所(最大) 中部地方: 53カ所、四国地方: 32カ所 関西地方: 19カ所 他29カ所</p>	<p>7.エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> <p>13.気候変動に具体的 な対策を</p>  
プロジェクト 02 : 小形風力 発電機事業	調達額: 30 億円 (全額リファイナンスを 計画)	<p><b>-概要</b> 水平軸方式小形風力発電。グループとして取組む風力発電事業。</p> <p><b>-出力、規模</b> * 充当対象候補約24基(最大)の合計 10kWクラス×2基/カ所 トータル: 約240kW(最大)</p> <p><b>-設置場所</b> * 充当対象候補約24基(最大) 鹿児島、北海道等の日本各地</p>	



a)ダイキ岡山店(500kW 岡山県岡山市 2018/8 連系)



b)ダイキ三原円一店(350kW 広島県三原市 2018/7 連系)



c)カーマ長浜店(300kW 滋賀県長浜市 2018/9 連系)



d)ホームックつくばみらい店(400kW 茨城県つくばみらい市 2019/1 連系)

写真-1 プロジェクト 01 太陽光発電事業(一例)



鹿児島県肝属郡南大隅町 10kW×2 基 2019/7 連系

写真-2 プロジェクト 02 小形風力発電機事業(一例)

**GBPで分類される調達資金の用途**

- 再生可能エネルギー
- 汚染防止及び抑制
- 陸上及び水生生物の多様性の保全
- 持続可能な水資源及び廃水管理
- 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス
- その他(具体的に記載)
- 債券発行時には未定であるが、現時点で GBP 分類または、GBP には記載されていない他の適格分野に適合することが予想される
- エネルギー効率
- 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管
- クリーン輸送
- 気候変動への適応
- 地域、国または国際的に認知された標準や認証を受けたグリーンビルディング

## (2) プロジェクトの評価と選定プロセス

DNV GL はレビューを通じて、スケジュール 1 に記載される 2 つの対象グリーンプロジェクトが、発行体の経営理念(コーポレートスローガン)及び中期経営計画(ESG 経営の推進)に合致し、また下記の適格クライテリアを満たすことを発行体の関連部署で適切な所定のプロセスを経て評価及び選定されたことを確認しました。プロジェクトの実行に当たっては「Ⅱ 項 スコープと目的 (3) 適用される基準もしくはガイドライン」に示す適格クライテリアに合致すると共に、プロジェクト選定の際に、「選出における前提条件」として下記を実施若しくは実施し、プロジェクトの実行に伴うネガティブな影響について対処していることを確認しました。

### <グリーンプロジェクト選出における前提条件>

- 環境関連法令及び諸規則の遵守(環境アセスメント実施等)
- ライフサイクルを考慮した温室効果ガスの削減の想定
- 地域コミュニティへの対応

### 評価及び選定

- |  |   |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境貢献目標の達成に合致していること                       | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトが定義された適格カテゴリーに適合していることを示した文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること      |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの調達資金の用途として適格なプロジェクトであり、透明性が確保されていること | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト実行に伴う潜在的な ESG リスクを特定し、管理していることを文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること |
| <input checked="" type="checkbox"/> 公表されている基準要旨に基づきプロジェクトの評価と選定が行われていること         | <input type="checkbox"/> (具体的に記載):  |

### 責任に関する情報及び説明責任

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 外部機関による助言若しくは検証による評価/選定基準 | <input checked="" type="checkbox"/> 組織内部での評価 |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載):                         |  |

### (3) 調達資金の管理

DNV GL は、ダイキアクシスが債券発行から償還までの期間、どのように資金を追跡管理するかについて確認しました。DNV GL は発行体が資金調達後に速やかに適格プロジェクトのリファイナンスに充当する計画であることを確認しました。資金充当状況については、発行体の内部経理管理手順に基づき支出し、財務部(経理財務課)が管理することを確認しました。発行体は各会計年度毎に定期的にグリーンボンドの残高をレビューする計画です。

なお、先述の通り、DNV GL は債券の財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、もしくは長期的な環境改善効果に関する保証も提供しません。

#### 調達資金の追跡管理:

- グリーンボンドにより調達された資金のうち充当を計画している一部若しくは全ての資金は、発行体により体系的に区別若しくは追跡管理される
- 未充当資金の一時的な投資の種類、予定が開示されている
- その他 (具体的に記載):

#### 追加的な開示情報:

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 新規投資のみに充当        | <input type="checkbox"/> 既存及び新規投資の両方に充当                   |
| <input type="checkbox"/> 個別(プロジェクト)の支出に充当 | <input checked="" type="checkbox"/> ポートフォリオの支出に充当         |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオを開示 | <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に記載):リファイナンスのみ |

## (4) レポーティング

DNV GL は、GBP 及び GBGLs で要求されるグリーンボンド特定の情報に関して償還までの期間、発行体のウェブサイトにて年次報告する予定であることを確認しました。これら情報公開には、各プロジェクト別(太陽光発電事業、小形風力発電事業)に、調達資金の充当と管理状況、対象プロジェクトと進捗、及び関連する定性的・定量的な環境改善効果についての記載が含まれます。環境改善効果については GBP のレポーティング方法に関連するハンドブック「インパクトレポーティング調和化に関する冊子」を参照し、機密性を考慮して開示する予定であることを確認しました。具体的には以下を予定しています。

### -1- 調達資金の充当と管理

- (1) 調達資金を充当したグリーン適格プロジェクトの内、電力供給を開始した施設の設備投資額
- (2) 調達資金のうち、リファイナンスの額又は割合
- (3) 調達資金のうち、未充当資金の額

### -2- 対象プロジェクトと進捗状況

- (1) 調達資金を充当した適格プロジェクトの連系工事完了済みの発電施設数
- (2) 調達資金を充当した適格プロジェクトの進捗状況(例：建設中の場合はその状況 完成予定時期等)

### -3- 環境改善効果

- (1) 調達資金を充当した適格プロジェクトの発電施設の出力(kW)、年間発電量(kWh)及び環境改善効果(kg-CO<sub>2</sub>削減量)

環境改善効果の評価は、以下の方法により算出する方法です。ダイキアクシスは既にこの算出方法を用いた環境改善効果をダイキアクシスウェブサイト<sup>\*1</sup>で月次情報として開示しています。

$$\text{CO}_2 \text{削減量(kg-CO}_2 \text{削減量)} = \text{発電量(kWh)} \times \text{CO}_2 \text{排出係数(kg-CO}_2 \text{/kWh)}$$

発電量：太陽光発電事業及び風力発電事業の実績値

CO<sub>2</sub> 排出係数：「温対法に基づく事業者別排出係数」より CO<sub>2</sub> 排出係数の全国平均値

\*1 ダイキアクシスウェブサイト：IR 情報(適時開示情報)、太陽光事業に係る月次情報

ダイキアクシスは、ダイキアクシスグリーンボンドが関連する基準に継続的に適合していることの確実性(整合性)、客観性を高めるために、調達資金の大半の充当が完了する見込である約 2 年後まで DNVGL による外部レビューを取得する予定です。



**資金充当状況に関する報告事項:**

- プロジェクト単位  プロジェクトポートフォリオ単位  
 関連する個々の債券単位  その他(具体的に記載):

**報告される情報:**

- 資金充当額  資総額のうちグリーンボンドにより充当された額割合  
 その他(具体的に記載):

**頻度:**

- 毎年  半年ごと  
 その他(具体的に記載):

**インパクトレポート (環境改善効果) :**

- プロジェクト単位  プロジェクトポートフォリオ単位  
 関連する個々の債券単位  その他(具体的に記載)

**頻度:**

- 毎年  半年ごと  
 その他(具体的に記載):

**報告される情報 (予測される効果、若しくは発行後):**

- GHG 排出量/削減量  エネルギー削減量  
 その他の ESG 評価項目(具体的に記載):

**開示方法**

- 財務報告書に記載  サステナビリティレポートに記載  
 臨時報告書に記載  その他(具体的に記載) : ダイキアクシスウェブサイト  
 レビュー済報告書に記載(この場合は、外部レビューの対象となった報告項目を具体的に記載)

**評価結果**

DNV GL は、ダイキアクシスから提供された情報と実施された業務に基づき、ダイキアクシスがグリーンボンド適格性評価手順の要求事項を満たしており、GBP 及び GBGLs の「環境への利益を伴う新規プロジェクトもしくは既存プロジェクトへの資本調達及び投資を可能にする」というグリーンボンドの定義・目的と一致していることを意見表明します。

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社.

2019年12月6日



マーク ロビンソン

サステナビリティサービス マネージャー

DNV GL ビジネス・アシュアランス、オーストラリア



前田 直樹

代表取締役社長

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



金留 正人

プロジェクトリーダー

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

#### About DNV GL

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV GL enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight.

With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

#### Disclaimer

Responsibilities of the Management of the Issuer and the Second-Party Opinion Providers, DNV GL: The management of Issuer has provided the information and data used by DNV GL during the delivery of this review. Our statement represents an independent opinion and is intended to inform the Issuer management and other interested stakeholders in the Bond as to whether the established criteria have been met, based on the information provided to us. In our work we have relied on the information and the facts presented to us by the Issuer. DNV GL is not responsible for any aspect of the nominated assets referred to in this opinion and cannot be held liable if estimates, findings, opinions, or conclusions are incorrect. Thus, DNV GL shall not be held liable if any of the information or data provided by the Issuer's management and used as a basis for this assessment were not correct or complete

## スケジュール-1 ダイキアクシス グリーンボンド候補プロジェクト

No.	グリーンボンド プロジェクトポートフォリオ		グリーンプロジェクト分類 [環境改善効果]	グリーンプロジェクト サブ分類	充当予定額		特記事項 (概要、出力・規模、設置場所、等)
01	再生可能 エネルギー 関連事業	太陽光 発電事業	再生可能エネルギー [エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 削減]	太陽光発電(陸上)  屋根置き型太陽光発電	20~30 億円 (リファイナンス)	30 億円  (償還期間： 10年)	<b>-概要</b> DCMグループホームセンター既存店舗への屋根置き型太陽光発電  <b>-出力、規模</b> 50kW~900kW/カ所 トータル：23,750kW* * 充当対象候補約133カ所(最大)の合計  <b>-設置場所</b> 中国地方：53カ所 四国地方：32カ所 関西地方：19カ所 他29カ所 計 約133箇所(最大)  <b>-その他</b> 既存店舗の屋根を利用した太陽光発電であり、新たな土地開発を必要としない環境へのリスクが低いプロジェクトである。設置工事、運転・維持管理費用を含む。
02		小形風力 発電事業		風力発電事業(陸上)  小形風力発電 (10kW クラス)			残額 (リファイナンス)

## スケジュール 2 グリーンボンド適格性評価手順

下記のチェックリスト(GBP-1 ~ GBP-4) は、グリーンボンド原則 2018 を基に、ダイキアックスグリーンボンド適格性評価用に作成された DNV GL 手順です。

### GBP-1 調達資金の使途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL 観察結果
1a	資金の種類	グリーンボンドの種類は GBP で定義される以下の種類のいずれかに分類される。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・(標準的)グリーンボンド</li> <li>・グリーンレバニューファイナンス</li> <li>・グリーンプロジェクトファイナンス</li> <li>・その他</li> </ul>	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> <li>- ダイキアックスグリーンボンドフレームワーク(以下、ダイキアックスフレームワーク)</li> </ul> ダイキアックス関係者との協議	評価作業を通じダイキアックスグリーンボンド(以下、グリーンボンド)は以下のカテゴリに分類されることを確認した。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・(標準的)グリーンボンド</li> </ul>
1b	グリーンプロジェクト分類	グリーンボンドにおいて肝要なのは、その調達資金がグリーンプロジェクトのために使われることであり、そのことは、証券に係る法的書類に適切に記載されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> <li>- ダイキアックスフレームワーク</li> <li>- 参加検討依頼書</li> <li>- ダイキアックスウェブサイト(予定)</li> </ul> ダイキアックス関係者との協議	フレームワークの中で特定されたプロジェクトが GBP 及び GBGLs で分類される代表的な以下の適格カテゴリに該当する。 <b>「再生可能エネルギー」</b> 具体的なプロジェクトとして、ダイキアックスが推進する再生可能エネルギー関連事業の以下に含まれる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 太陽光発電事業</li> <li>- 小形風力発電機事業</li> </ul> また、調達資金はリファイナンスとして充当される計画である。
1c	環境面での便益	調達資金使途先となる全てのグリーンプロジェクトは明確な環境面での便益を有すべきであり、その効果は発行体によって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> <li>- ダイキアックスフレームワーク</li> <li>- ダイキアックスウェブサイト(IR 情報/適時開示情報、太陽光事業に係る月次情報)</li> </ul> ダイキアックス関係者との協議	DNV GL は、適格プロジェクトの実行によりエネルギー起源の CO <sub>2</sub> 削減に貢献することを確認した。既に実行中のプロジェクトにおいて発行体は、CO <sub>2</sub> 削減効果について、ウェブサイトに算出方法及び算出結果を月次報告として開示している。  DNVGL はアセスメントを通じ、プロジェクト実行(太陽光発電の設置、小形風力発電の設置)に関連する GHG 排出リスクは以下の観点から相対的に少なく、GBP 及び GBGLs の適格性に含まれる判断した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 太陽光発電事業：屋根置き型であり新たな土地開発は含まれない</li> <li>- 風力発電機事業：土地開発を含むが、限定された範囲である</li> </ul>

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
1d	リファイナンスの割合	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、発行体は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトポートフォリオがリファイナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。	確認した文書類： - ダイキアクシスフレームワーク - 太陽光発電及び小形風力発電プロジェクトリスト ダイキアクシス関係者との協議	グリーンボンドにより調達した資金のうち手取り金は、全てスケジュール-1に含まれる適格プロジェクトの両方(太陽光発電事業、小形風力発電機事業)にリファイナンスとして充当される計画である。

## GBP-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	<p>グリーンボンドの発行体はグリーンボンド調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発行体が、対象となるプロジェクトが適格なグリーンプロジェクトの事業区分に含まれると判断するプロセス</li> <li>グリーンボンド調達資金の用途となるプロジェクトの適格性についての規準作成</li> <li>環境面での持続可能性に係る目標</li> </ul>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- ダイキアキスフレームワーク</li> <li>- ダイキアキス内部文書(充当対象の選出について)</li> </ul> <p>ダイキアキス関係者との協議</p>	<p>ダイキアキスフレームワークに基づき、ダイキアキスは以下の基準に従いプロジェクトの選定を行った。</p> <p>適格プロジェクト：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- スケジュール 1 に記載される 2 つの対象グリーンプロジェクトが、発行体の経営理念(コーポレートスローガン)及び中期経営計画(ESG 経営の推進)に合致し、また下記の適格クライテリアを満たすことを発行体の関連部署で適切な所定のプロセスを経て評価及び選定されたこと</li> <li>- プロジェクトの実行に当たっては「Ⅱ 項 スコープと目的 (3) 適用される基準もしくはガイドライン」に示す適格クライテリアに合致すると共に、プロジェクト選定の際に、「選出における前提条件」として下記を実施若しくは実施し、プロジェクトの実行に伴うネガティブな影響について対処していること。</li> </ul> <p>&lt;グリーンプロジェクト選出における前提条件&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 環境関連法令及び諸規則の遵守(環境アセスメント実施 等)</li> <li>- ライフサイクルを考慮した温室効果ガスの削減の想定</li> <li>- 地域コミュニティへの対応</li> </ul>
2b	発行体の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	<p>グリーンボンドプロセスに関して発行体により公表される情報には、規準、認証に加え、グリーンボンド投資家は発行体のフレームワークや環境に関連する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。</p>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- ダイキアキスフレームワーク</li> <li>- ダイキアキス経営理念、中期経営計画他</li> <li>- ダイキアキスウェブサイト(IR 情報/適時開示情報、太陽光事業に係る月次情報)</li> </ul> <p>ダイキアキス関係者との協議</p>	<p>DNV GL は文書及びインタビューを通じたアセスメントにより、ダイキアキスが経営理念(コーポレートスローガン) 及び中期経営計画(ESG 経営の推進)を通じ、再生可能エネルギー関連事業の推進により環境面での持続可能な社会に貢献する方針を示しており、また実行中であることを確認した。また、ダイキアキスはウェブサイトで、既に実行中の太陽光発電事業による CO<sub>2</sub> 削減効果(パフォーマンス)について、算出方法及び算出結果を月次報告として開示している。</p> <p><a href="http://www.daiki-axis.com/ir/004/index.html#008">http://www.daiki-axis.com/ir/004/index.html#008</a> * 太陽光事業に係る月次情報</p> <p>ダイキアキスは適格プロジェクトによる環境改善効果について、フレームワークに基づいて年次レポートする報告する計画である。</p> <p>また、ダイキアキスとの協議及び文書レビューにおいて、DNV GLはダイキアキスの実施するグリーンプロジェクトが持続可能な社会の実現に有効な事業であるということを確認した。</p>



## GBP-3 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	グリーンボンドによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、グリーンプロジェクトに係る発行体の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、発行体によって証明されるべきである。	確認した文書類： - ダイキアキスフレームワーク - ダイキアキス内部管理規程文書類 ダイキアキス関係者との協議	DNV GLは文書レビューとインタビューにより、調達した資金の全ては債券発行後から償還までの間、ダイキアキスの一般的な会計口座に入金され、その後、経理管理規定や文書管理規定に基づく内部プロセスを用いて適格プロジェクトに充当される。
3b	調達資金の追跡管理-2	グリーンボンドの償還期間において、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格プロジェクトへの充当額と一致するよう、調整されるべきである。	確認した文書類： - ダイキアキスフレームワーク - ダイキアキス内部管理規程文書類 ダイキアキス関係者との協議	DNV GLは文書レビューとインタビューによりダイキアキスが債券発行から償還までの期間、どのように資金を追跡管理するかについて確認した。DNV GLは発行体が資金調達後に速やかに適格プロジェクトのリファイナンスに充当する計画であることを確認した。発行体はすくなくとも各会計年度毎に定期的にグリーンボンドの残高をレビューする計画である。
3c	一時的な運用方法	適格性のあるグリーンプロジェクトへの投資または支払いが未実施の場合は、発行体は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を投資家に知らせるべきである。	確認した文書類： - ダイキアキスフレームワーク - ダイキアキス内部管理規程文書類 ダイキアキス関係者との協議	ダイキアキスは資金調達後速やかに発行体の内部管理規程に基づきリファイナンスして全額を支出する予定であり、未充当資金は発生しない。

## GBP-4 レポーティング

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV GL観察結果
4a	定期レポートの実施	調達資金の用途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、発行体はグリーンボンドで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を考慮した上で、各プロジェクトのリストを提供すべきである。 -守秘義務や競争上の配慮 -各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境・社会的な効果	確認した文書類： - ダイキアックスフレームワーク ダイキアックス関係者との協議 その他：ダイキアックスウェブサイト	ダイキアックスはグリーンボンドで要求される特定の項目についてダイキアックスウェブサイトにて年次で情報開示を行う予定である。情報開示には充当状況、プロジェクト進捗状況、貢献貢献に関連する定性的及び定量的な報告が含まれる。具体的にはダイキアックスはスケジュール-1 に示したプロジェクトを通じて提供した再生可能エネルギーによる発電実績に基づき、CO <sub>2</sub> 削減量(t-CO <sub>2</sub> )をウェブサイトで報告する予定である。